



(第2回) 学校教育力向上に向けたアンケート結果(生徒回答)

前号で掲載いたしました「学校教育力向上に向けたアンケート」の保護者回答に引き続き、生徒回答の集計結果を紹介いたします。この結果につきましては、学校運営協議会・教職員と共有し、今後の学校改善につなげて参ります。

*数値は「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した人数をあわせた割合になっています。

令和4年度「前期」と令和4年度「後期」との比較

*令和4年度前期より上がった(↑)

*令和4年度前期より下がった(↓)

設問	前期	後期
①学校生活は全般的に楽しく過ごせている	93%	95% ↑
②友達と仲良く過ごせている	97%	98% ↑
③困ったときに相談できる友達がいる	89%	88% ↓
④学校行事を前向きに取り組んでいる	94%	90% ↓
⑤自らすすんで挨拶ができています	76%	76%
⑥学校のルールは守れている	88%	92% ↑
⑦授業は楽しい	77%	79% ↑
⑧授業はわかりやすい	84%	84%
⑨学力を伸ばし、自らの進路実現を達成したい	90%	90%
⑩授業を受ける前に教室の美化、机椅子はきちんと整理されている	82%	82%
⑪自分にはいいところがある	68%	73% ↑
⑫将来の夢がある	63%	63%
⑬地域の行事には積極的に参加している	35%	33% ↓
⑭自分の住んでいる町に愛着を持っている	76%	73% ↓
⑮早寝、早起きを心がけている	53%	54% ↑
⑯朝ごはんを毎日食べている	81%	84% ↑
⑰予習復習をきちんとできている	46%	49% ↑

設問	前期	後期
⑱宿題はきちんと忘れず提出できている	77%	80% ↑
⑲グループ学習では仲間と相談しながら、自らの課題を見つけて取り組んでいる	81%	85% ↑
⑳文章の読解力や作文・発表等の表現力が増してきた	71%	70% ↓
㉑朝夕の検温など、健康観察をしっかり行っている	78%	68% ↓
㉒ハンカチを持ってきている	57%	57%
㉓ソーシャルディスタンスを心がけている	46%	42% ↓
㉔マスクの着用を適切に行っている	93%	94% ↑

♪♪学校生活について♪♪

学校生活に関する多くの設問において、前期よりも肯定的評価が多少ありますが上昇しています。しかし、「設問③困ったときに相談できる友達がいる」においては、若干減少しました。思春期という時期はアイデンティティーの確立の時期と言われていて、生徒自身が自分探しの旅に出かける時期と言われています。したがって、この時期は“不安”がつきものになります。その不安を和らげてくれる資源の1つが“周囲の支え”です。上昇させるためには設問⑲「グループ学習では仲間と相談しながら、自らの課題を見つけて取り組んでいる」のような教育活動の実践が大切だと考えています。本校では、今後も主体的で対話的な授業の構築を目指していきます。

また、設問④「学校行事を前向きに取り組んでいる」においても若干減少しています。今年度もコロナ禍の影響で従来通りの学校行事が開催できなかったことが影響しているのかもしれませんが。来年度は、With コロナの生活様式がさらに本格化していくものと予想されます。学校行事も、生活様式の変化を鑑みながら再構築していきます。

★★自尊感情について★★

設問①「自分にはいいところがある」について5%上昇しました。毎週金曜日に学校HPで掲載している「世界に1つだけの花」にありますように、本校では生徒の自尊感情を育むことに重点をおいています。目標値は80%以上を目指していましたが残念な結果になりました。来年度は「世界に1つだけの花」のみならず、様々な教育活動を通して、仲間に褒められるような場面を増やすことで自己有用感を高め、そのことが自尊感情の向上につながるようにしていきたいと考えています。



学校HP QRコード
「大淀中学校」でも検索できます

また、今年度は「PSTクリーンキャンペーン」や「與杼神社 秋季大祭 神輿渡御」などの地域行事が3年ぶりに開催されました。来年度は、より多くの生徒が参加できるように促し、地域で生徒を育む文化を発信していきたいと思っています。

■□高校入試が始まりました□■

一部の学校では1月から始まりましたが、2月10日(金)から私立高校の選抜試験が本格的にスタートしました。16日(木)からは公立高校の前期選抜、3月8日(水)には公立高校の中期選抜が行われます。3年生は自分の進路に向き合うと共に、自分自身についても考え進路選択を行います。全員が、希望する進路に進めることを願っています。



2年生 人権学習(性教育)

2年生は、性の多様性(LGBTQ)について学習しました。SDGsで求められる多様性とは「集団の中に異なる特徴・特性を持つ人がともに存在すること」と定義されています。一言で多様性と言っても、個人の多様性や関係性の多様性という観点もあったり、性の多様性・食の多様性・働き方の多様性・美しさの多様性など、特定の分野における多様性もあります。人は、この多様性について寛容であると自認していても、世の中に存在する多様な人についての知識が足りない場合、問題を引き起こしてしまうこともあります。そのようなことを知るきっかけとして、性の



多様性について学習しました。事前に性の多様性について各クラスで知識を得たうえで、トランスジェンダー(心と体の性が異なる人)である坊奥史哉さんに

実体験を講演していただき学習しました。

(2年生 生徒作文)

私はもっとLGBTQについて学ぶべきだと思います。人を好きになる事はすごくすてきな事なのに、それが性別によって良い悪いを決めるのは間違っているし、自分の人生を人に決められる決めさせられるのはおかしいです。同性愛も異性愛も普通の事だし、それを人に相談するのが正解な訳でもないと思います。今、私が知っている世界は小さくて世界中にはもっと色々な人がいるのだから、いつかもっとLGBTQに深く関わるような事もしてみたいです。この学年にも悩んでいる人がいるかもしれないし、私は今後、性別や容姿について人を馬鹿にするような発言はしないようにします。個性も認められるような人間になりたいです。

●○校則改定に向けて○●

8月号で紹介しましたが、12月に文部科学省から、生徒指導の考え方を体系的にまとめた生徒指導提要改訂版が公表されました。その中に「児童の権利に関する条約」について盛り込まれました。この観点から、校則は継続的に見直していくことの必要性が明記されています。本校では、主に服装規定についての見直しを全校生徒で取り組んでいます。今までの服装規定は「ピンやゴムの色」「防寒具の指定」「ベストの色指定」など、様々な限定がありましたが、TPOに応じて生徒が判断する力を養うために、以下のような服装規定を、生徒会本部が中心になり提案されました。現在、この服装規定で試行を行っています。その一貫として、全校生徒の85%以上が言えるようになることを目標に校則テストを実施しました。今後、生徒手帳に記載する詳しい内容を考えています。

【暫定版 服装規定】

- 学習の場であることを意識し、学習の専念にふさわしい服装でのぞむこと。
- 端正清潔を旨として、本校生徒として自覚ある着こなしを心がける。

(校則テストの結果)

正答率:91.6%

(正解率上位のクラス)

1組:100% 1年3組:96.8% 3年2組:96.3%